

松川町地域産業推進協議会 第6回企画委員会 会議録

日時：平成24年9月12日（水）

午後6時30分～8時30分

会場：松川町役場 2階 大会議室

第6回目の企画委員会を開催。

今回も前回同様のシャッフルした部会（A・B・C部会）にて開催。

テーマは、第3回地域産業推進協議会の中で提案された案件を基に事前通知し、ワークショップを行いました。

A部会は、「町百景の地図化」

B部会は、「地域通貨」

C部会は、「空き店舗を利用した物販」

各部会から出された意見等については、次頁以降へ記載します。

A部会『町百景の地図化』

○町百景の地図を作成することの目的と作成方法について

- ・現在、町百景の地図がなければ作ることは良いこと。
- ・百景と言うと写真撮影のイメージがあるが、観光コースになる地図が良い。
- ・町民も町の良さを再発見できる地図が良い。
- ・私の自治会自慢を収集。
- ・地区の長老（歴史を語ってくれる方）から聞き取りする。

○活用について

<観光コースの例>

- ・ジャンル別が良いが、年齢別コースは不要。
- ・泊り客用の半日コース、日帰り客用の2時間コース
- ・ファミリー向けコース
- ・季節（花、山など）に合わせたコース
- ・地元ならではのものを巡る（昔の果樹の防除組合が使用した跡とそのやり方の説明、桜山に来るために駅から長蛇の列ができていたことなど）。
- ・風景だけでなく、田植えや花つみ、摘果作業など人の生活も含めて百景にすべき。
- ・自然を残しながらも川を整備して、宿泊客用の釣りやつかみ取りができる環境を整え、川遊びができるポイントを載せる。
- ・JAの協力が必要になるが、選果場の見学。

○百景地図を作成後の活用

- ・どのポイントにどのくらい観光客が来たか統計をとり、さらに地図のレベルアップを計る。

○課題

- ・情報収集や発信をする拠点が必要であり、インターから近く、寄り付きが良い「みらい」の活用を検討。

B 部会『地域通貨』

◎新たな地域通貨を考える

◎今ある地域通貨を発展させる

○新たな地域通貨

- ・修学旅行の受け入れを行う代わりに商品券の発行 →商店街のみ使用
- ・企業が訪問したら、ポイントが貯まる。
- ・旅の人もカード発行 →定期的に松川町にお越しいただく。

○今ある地域通貨(マークンカード)を充実させる

- ・ポイントの使い方を知る。
- ・ポイントを商品券化する。
- ・お店によってサービスをする。
- ・ゲーム感覚のポイント
- ・シールによるポイント
- ・景気に左右され、拡大が難しい。
- ・行政の発行する商品券はうまくいっていない。
- ・行政でのポイント補助
- ・町の税金をポイントで支払う。
- ・チャンネル・ユー使用料をポイントで支払えるようにする。

●このような意見を元に良し悪しはあるが、新たに地域通貨を作るのは難しいと考え、今あるマークンカードの充実、発展させようと考えます。

C部会『空き店舗を利用した物販』

○主体…新井商店街の空き店舗、上片桐商店街

○物件…新井商店街は区分所有等で権利関係が複雑。上片桐は個店で活用しやすい。

- ・佐久岩村田本町商店街は、主体となり朝市や母さん食堂を行っている。
- ・若い人の企業に空き店舗をタダで貸してみる。農商工で考えると厳しい。チャレンジショップのような形はどうか。
- ・果樹農家は人に頼らなくても、ホームページがなくても売れる。
- ・くだもの観光協会はまとまりにくい。近隣を見渡しても成功しているのは松川だけ。松本でも観光農園は無い。味、おもてなしが成功の秘訣。
- ・バスが少ないが、もともとマイカーが中心。松川ファンがいる。
- ・観光農園は連携しなくてもやっていける。
- ・良いものは自分で売れるため、清流苑で良いリンゴを売っていない。長い目でみると首を絞めている。
- ・JAに出荷せず、来てもらって消費するような地域ブランドを目指す。
- ・貴陽(プラム)は売れるが、食べ頃も栽培も難しい。意外と栽培している。
- ・値段の価値が難しい。それなりの物と思ってもらえるか。
- ・パンフレットを付けている。大量生産できない。
- ・新井商店街で考えなくとも、それ以外で探せば良い。
- ・商店街のシャッターが上がっているのを見ると町の活力を感じる。商店街は町の顔。
- ・専門化・オタク化していかないと残れない(飯田のフィギュア専門店のよう)。大手のような大量生産とは違う独自性を出していく。遠方から買いに来るようにしかけ、通販はしない。店側もプロになる。
- ・町で借り上げて安価で貸すか。タダで貸すか。
- ・新井に飲み屋を集中させる。
- ・昼間の商店街のマーケティング。ニーズを把握する。
- ・趣味にお金を掛ける時代。シルバー世代はお金を持っている。狙い!
- ・芸術教室(アート、書道、絵画、写真等)や麻雀は頭を使ってコミュニケーションの場となる。最近、フラッシュ暗算の人気がある。
- ・とにかく空き店舗を活用できればよいのではないか。
- ・1店舗でも埋まれば、人が流れるようになる。
- ・中川村は芸術で売ろうとしている。ストーリーを作るのも大事。
- ・松川町にはブランド戦略がない。「ほおずき」や「ひまわり」を今後どうしていくのか、考える必要がある。